

感謝

2024. 1. 11

ふと考えた。自分が校長として、学校経営に携わることができているのは、誰のおかげなのか。自分なりに考え、学校経営の方針や学校としてのスローガンなどを掲げている。生徒や先生方、保護者や地域の方の前でも話している。有言実行である。

一番根底にあるのは、おもいやりと人材育成である。人を育てたいのである。だが、こちらがいくら熱く語ろうが、相手のあることである。理解され、伝わらなければ、相手は動かない。校長が一人でできることと言ったら、大したことはない。そのほとんどは、先生方にやっていただいている。よく、校長のリーダーシップというが、先生方が動かなければ、リーダーシップにはならないだろう。

そう考えると、先生方への感謝の思いが湧いてくる。さらに考えていくと、自分が預かっている学校が、日々、大きな支障もなく教育活動を展開できているのは、生徒たちのおかげであることに気づかされる。その生徒たちは、それぞれのご家庭からやってくる。そう考えると、保護者をはじめお家の方にも感謝したくなる。子どもは地域の宝である。子どもは木、地域は土、教員は風である。そう考えると、地域にも感謝の念が湧いてくる。

「謙虚・誠実・実行をモットーに、教頭としてがんばってきます」と言ってから、16年が経過した。その後、すぐに「寛容・感謝」が付け足され、モットーは5つとなった。感謝と言っておきながら、どのくらい感謝できているだろうか。

本を読んでいると、すべての人に感謝、すべてのものに感謝といったフレーズが出てくる。頭ではわかってはいるが、自分にそのことができていたかというところ、あやしい。ところが、あるとき、ふうっと何かは抜けるように、前述のような感謝の思いが湧いてきた。16年も経って、ようやくである。ずいぶんと時間がかかった。もう少し、早くこうなっていれば、展開も変わってきていただろう。学校経営も、もう少しよくなっていたかもしれない。

学校経営三か条の3つめを「教職員を幸せにする」としている。先生方が健康でなければならぬ。意欲を失ってはいけない。目標をもっていなければならない。環境を整えることで、そのお手伝いをしたいと考えている。先生方の幸せを考えることが、すなわち生徒の幸せにつながる。

3学期がスタートした。3月まで、今まで以上に感謝の気持ちを先生方に伝えていきたい。自分の力など、ちっぽけなものである。人に支えられ、助けられ、何とかできているだけのことである。そのことに気づいた途端、すうっと軽くなった。感謝とは、こういうことなのか。

今まで、「ありがとうございます」という言葉をよく使ってきた。当たり前と言ってきた。これからは、その意味をかみしめながら、相手に伝わるように大切にこの言葉を使っていきたい。